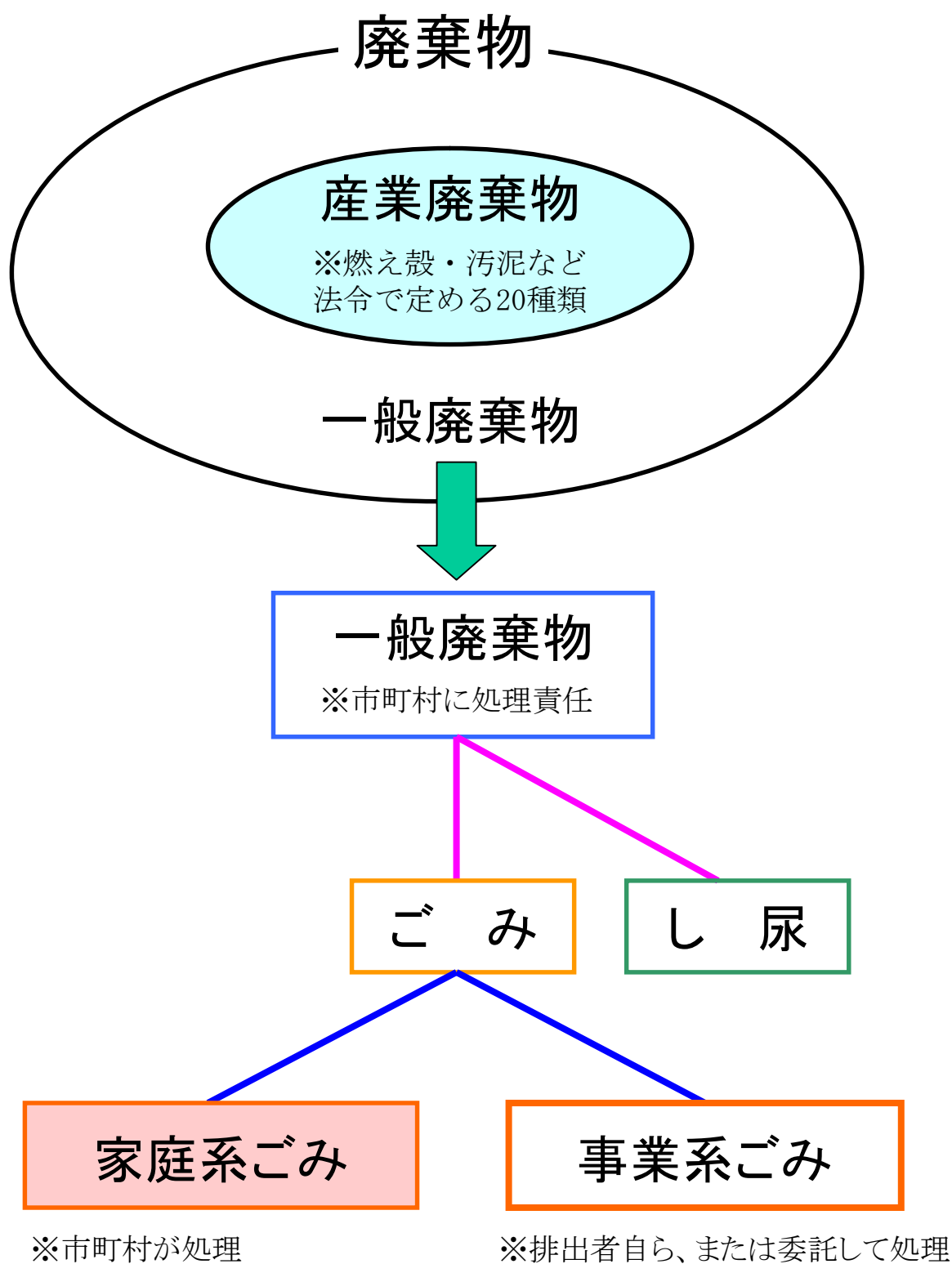


秋田市の廃棄物行政について

平成23年2月

環境部環境都市推進課

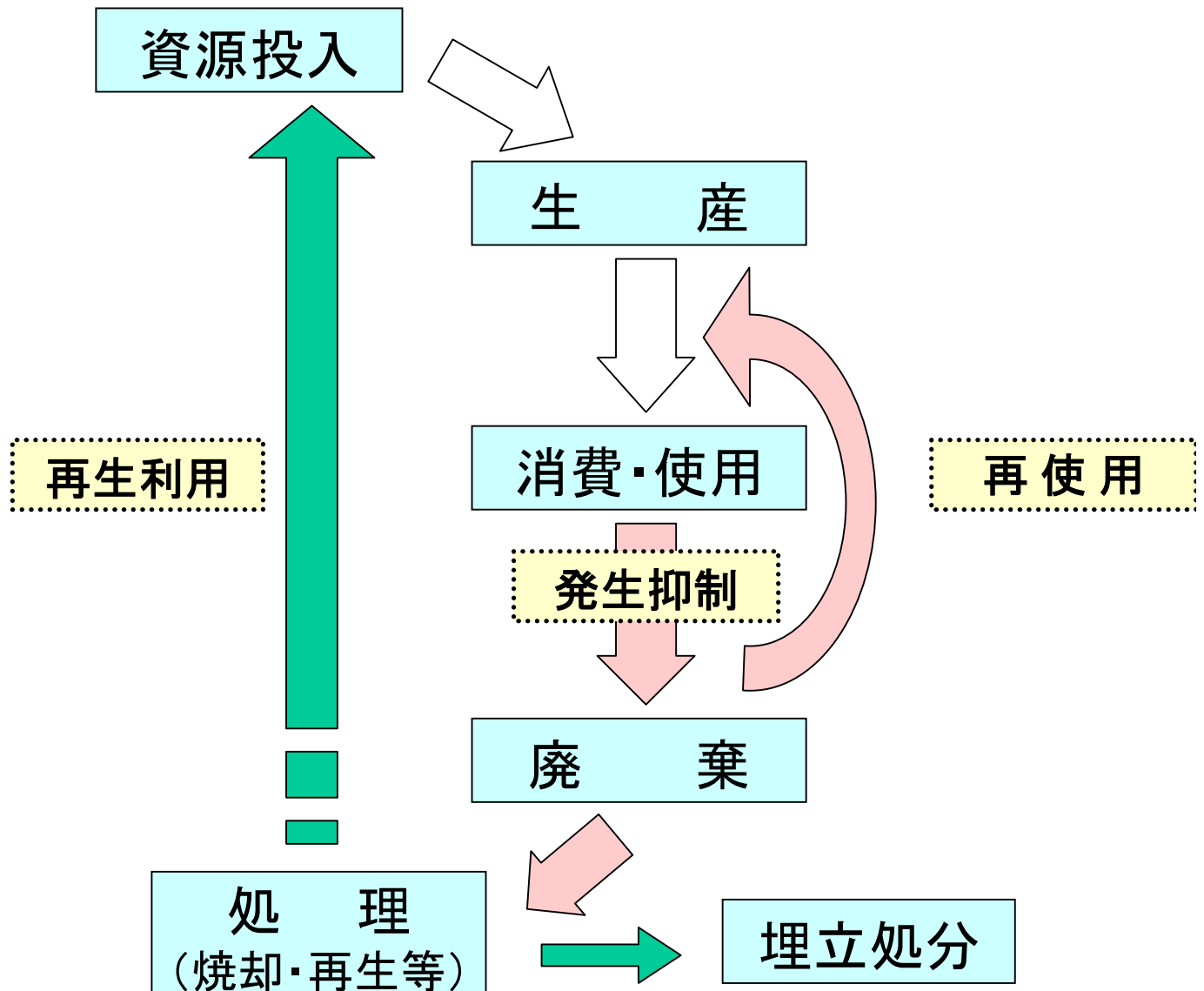
1 ごみについて



2 ごみに関する我が国の動き

(1) 3Rの推進

大量生産・大量消費・大量廃棄型から循環型社会へ



3R	1番目：発生抑制 (Reduce) リデュース
	2番目：再使用 (Reuse) リユース
	3番目：再生利用 (Recycle) リサイクル
	4番目：熱回収
	5番目：適正処分

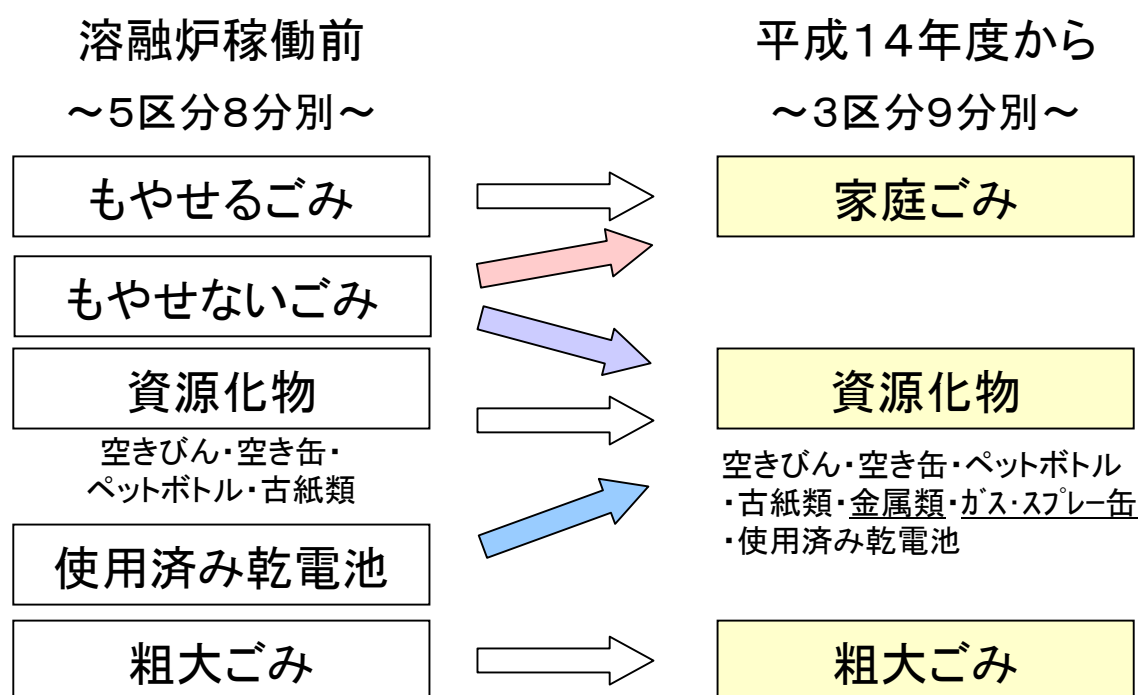
(2) 法体系



3 本市のごみ処理について

(1) 分別区分

種類	ごみの内容	出し方	注意する点	収集
家庭ごみ	生ごみ 食用油 袋、包み類 カップ、パック類 50cm 未満 草木類 チューブ製品 プラスチック製品 CD、レコード フロッピーディスク シャンプーや洗剤容器 ゴム製品 皮革製品 衣類 紙おむつ 再生できない紙 (エケジ)と書いてください コップ、化粧品などのびん 割れたびん ガラス製品 茶碗、皿 せともの類 (エケジ)と書いてください 蛍光灯、電球	白色半透明の指定ごみ袋 (赤印刷) または 透明の指定ごみ袋 (緑印刷)	・ガラスくず、電球、竹串など危険なものは紙に包んでなるべく袋の中央に入れるか、「キケン」と書いた紙を貼って出す ・生ごみをだす際は、できるだけ水切りする ・白色発泡トレイは、スーパーなどの店頭回収に協力する	週2回
資源	金 属 類 (金属の割合が50%以上のもの) (エケジ)と書いてください この部分が金属製のもの 金属製調理器具 小型家電製品 骨が金属製のかさ	透明の指定ごみ袋 (緑印刷)	・とがったものや、刃物などは、紙に包んで「キケン」と書く ・家電品の電池ははずす ・判断がつかないものは「家庭ごみ」へ	月1回
資源	空 き び ん	袋には入れず回収箱へ	・キャップは「家庭ごみ」 ・中を軽くすすぐ	月2回
資源	ガス・スプレー缶	空きびんと同じ回収箱へ	・火のない風通しの良い場所で穴をあける	月2回
資源	空 き 缶	透明の指定ごみ袋 (緑印刷)	・中を軽くすすぐ	月2回
資源	使用済み乾電池	透明の小袋に入れて空き缶の袋へ	・ボタン型、充電型は販売店へ	月2回
資源	ペ ッ ト ボ ト ル PET	透明の指定ごみ袋 (緑印刷)	・キャップは「家庭ごみ」 ・中を軽くすすぐ ・塩ビボトルや食用油のボトルは「家庭ごみ」	月2回
資源	古 紙 類 ○新聞・チラシ ○雑誌・紙箱 ○ダンボール ○紙パック	それぞれ分けて紙ひもでしばる	・粘着テープで束ねない ・写真、防水加工紙、内側にアルミ加工された紙パックなどは「家庭ごみ」へ	月2回
粗大ごみ	一辺が50cmを超える大型の耐久消費財など	申込み制の戸別有料収集		週1回



(2) 収集体制

○家庭系ごみ

平成22年4月1日現在

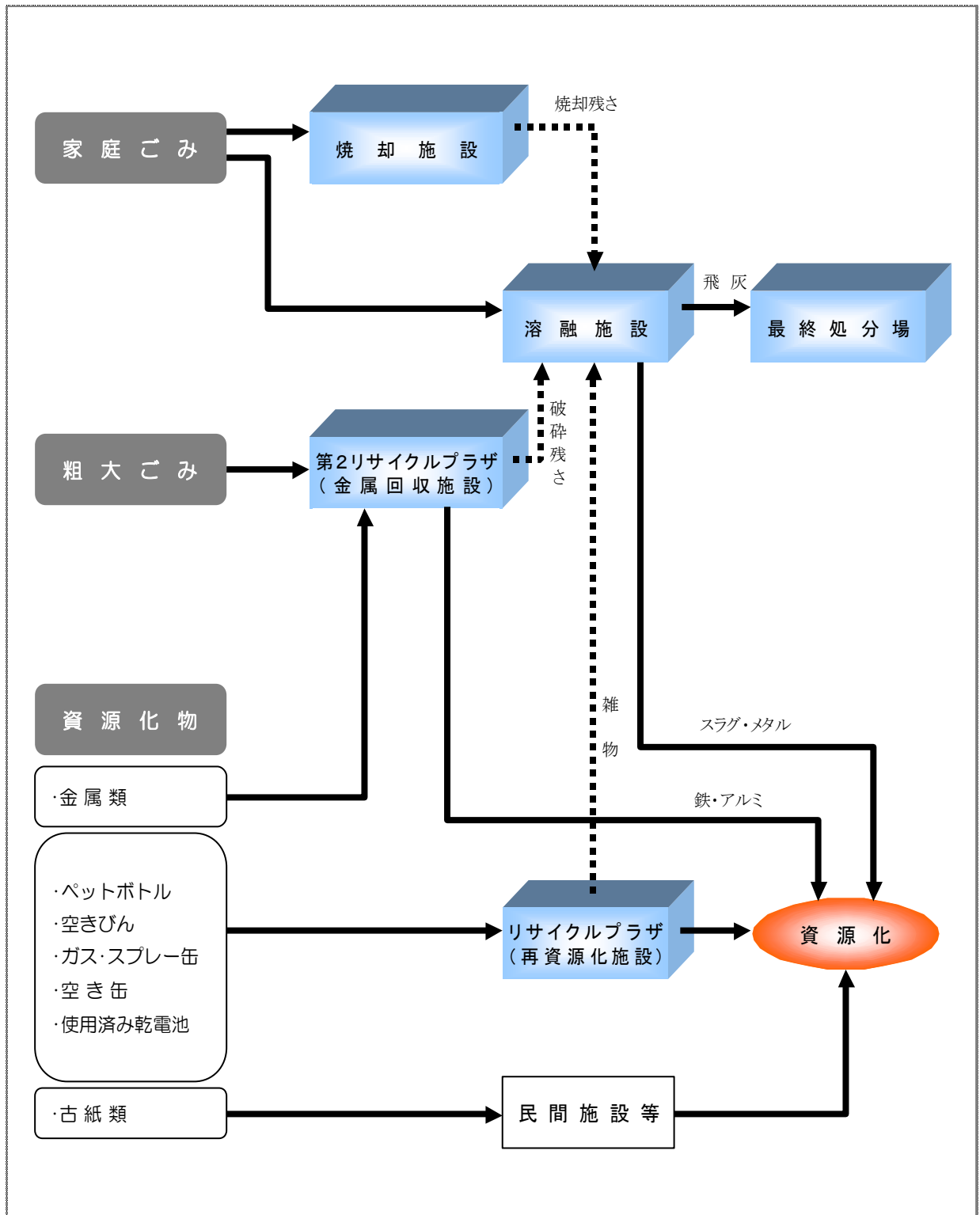
区 分		収集方法	収集形態
家 庭 ご み	金 属 類	ステーション 方式 6,327カ所	・委託 6社 51台
	ペットボトル		
	空きびん		・委託 2社 14台
	ガス・スプレー缶		
	空 き 缶		
	使用済み乾電池		
	古 紙		・古紙回収協会 13台
粗 大 ご み		戸別有料	・委託 1社 3台

※平成22年度から全面委託

○事業系ごみ

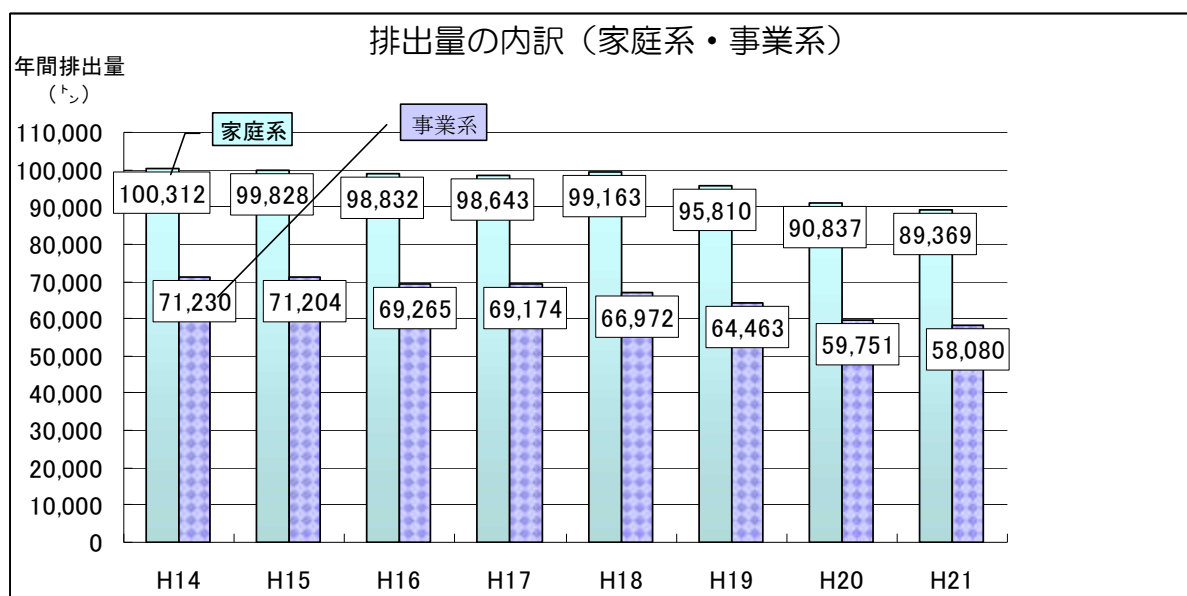
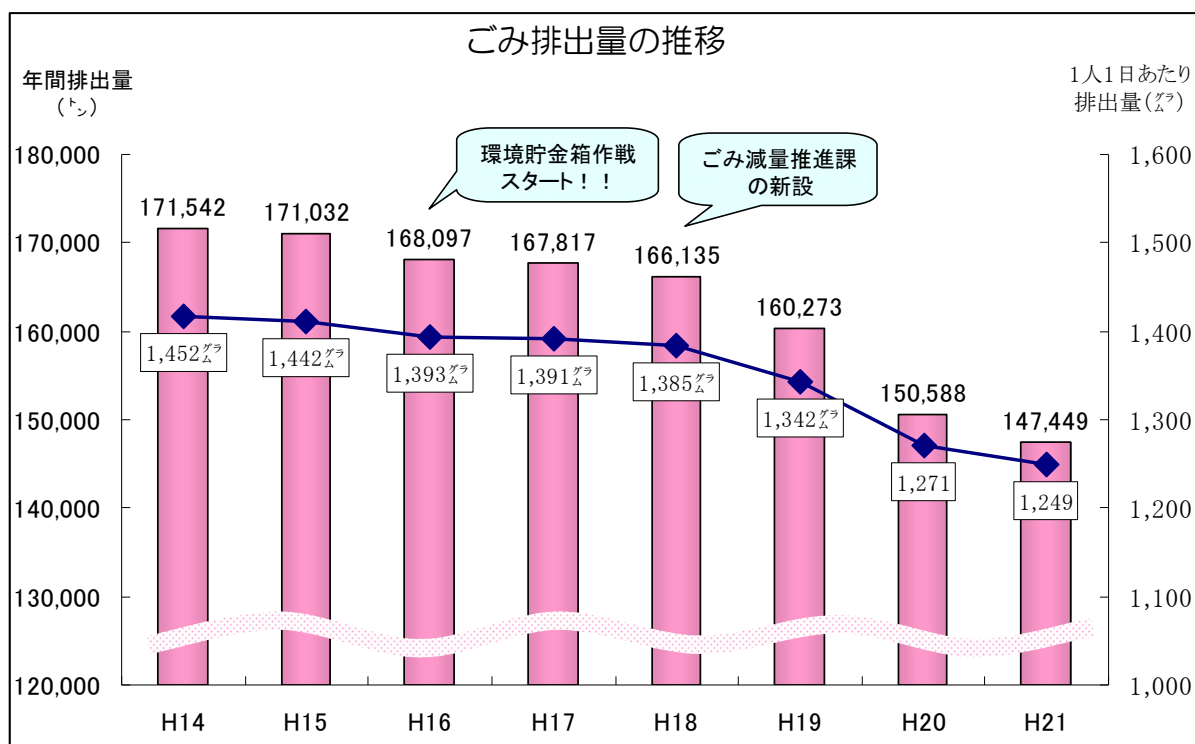
排出者自ら総合環境センターへ搬入するか、許可業者へ委託

(3) 処理の流れ

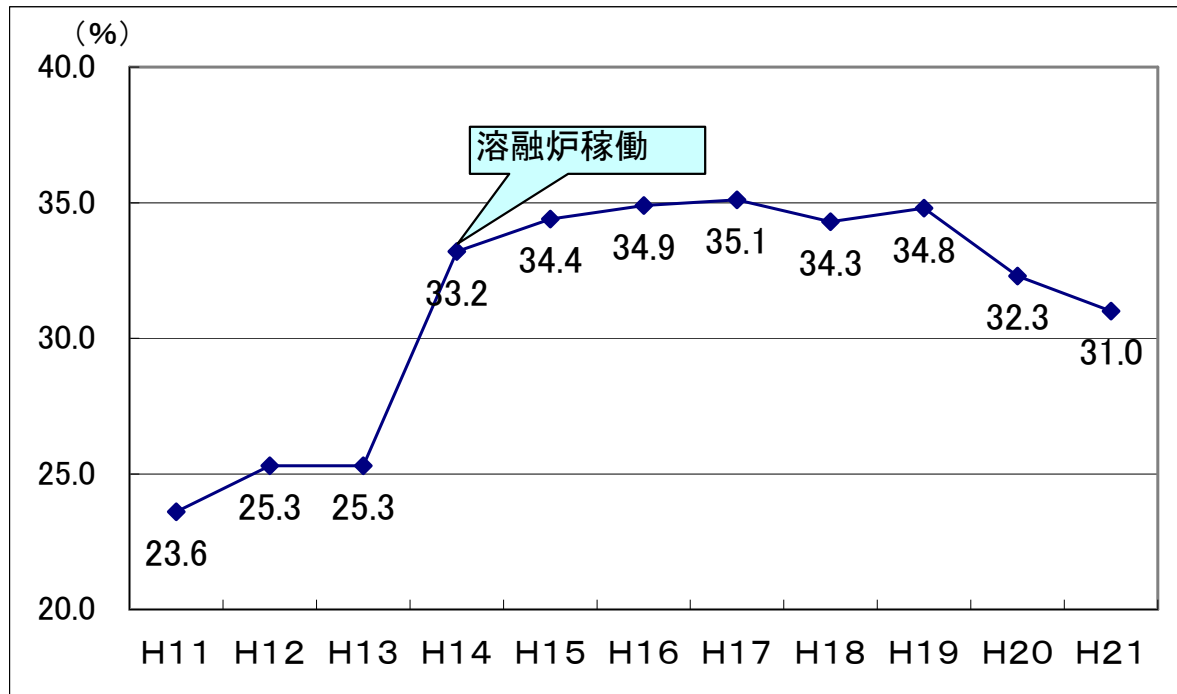


4 本市のごみの状況

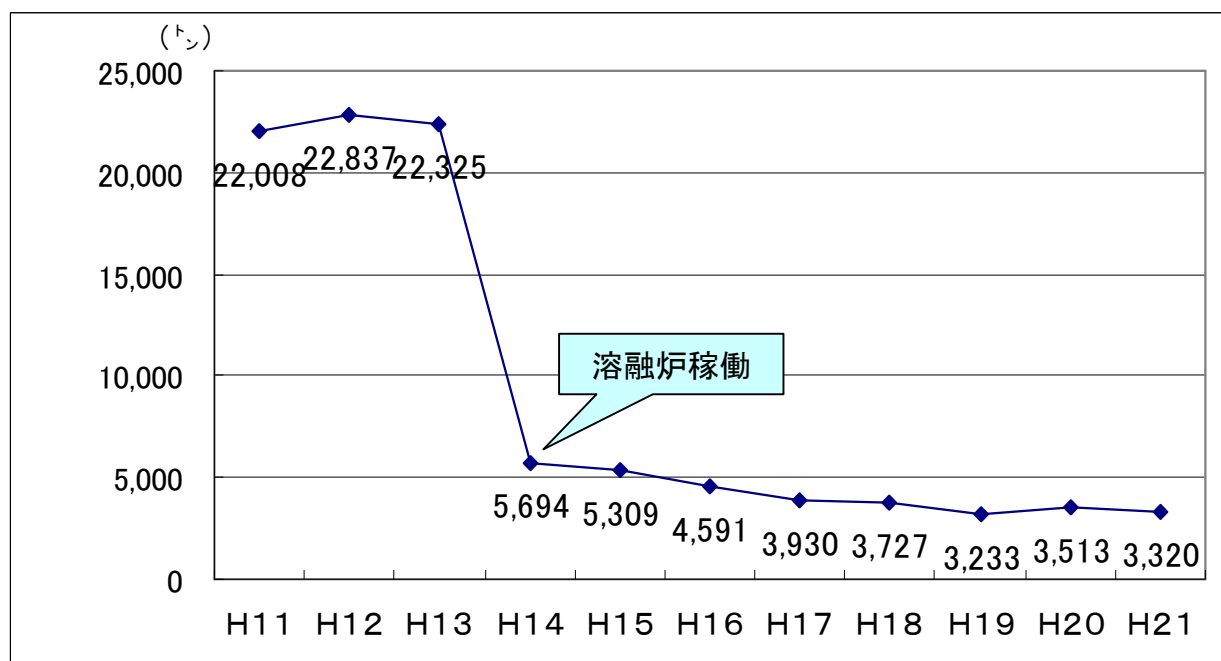
(1) 排出量の推移



(2) リサイクル率の推移



(3) 最終処分量の推移

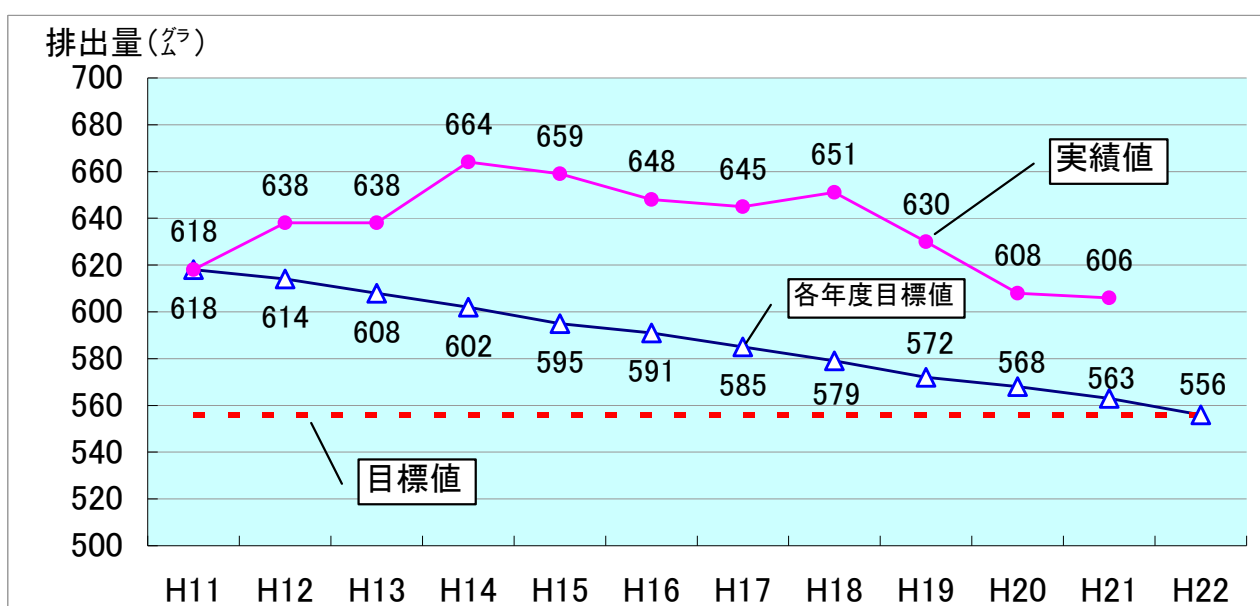


5 課 題

(1) ごみ減量目標との乖離

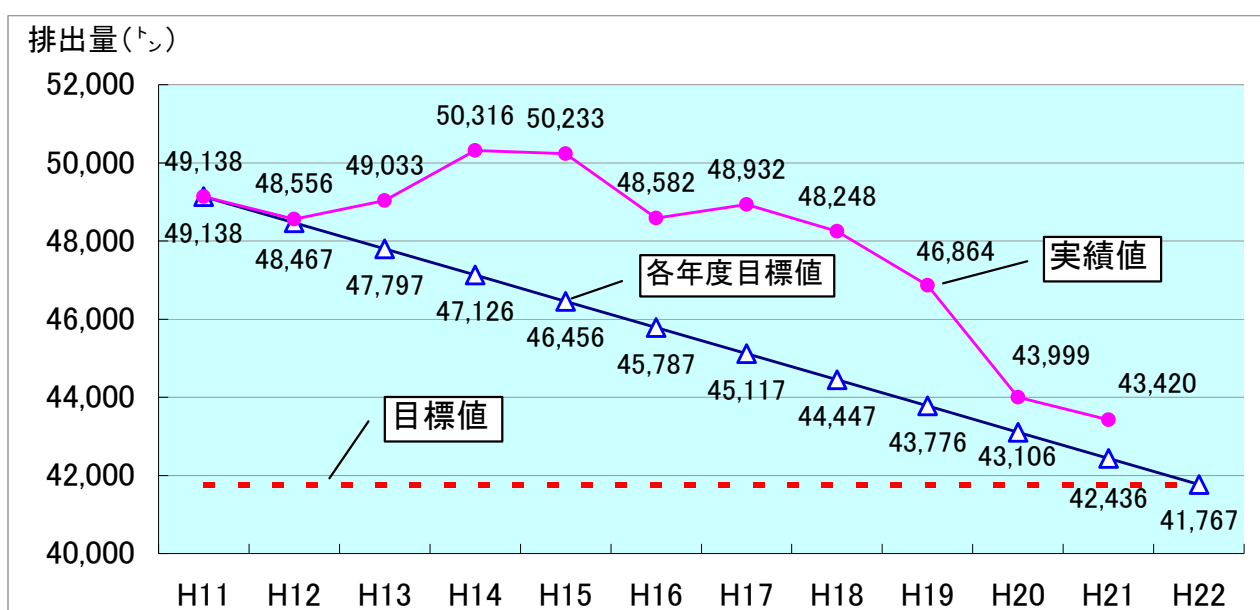
○家庭系ごみ(資源化物を除く)

1人1日あたりの排出量を平成11年度実績から10%以上削減



○事業系ごみ(資源化物を除く)

年間排出量を平成11年度実績から15%以上削減



(2) 生ごみの減量と分別の徹底

～平成21年度地域別家庭ごみ組成調査結果～

○ 調査の概要

秋田市内の標準的なデータが得られるよう、排出者の生活スタイルや地域性等を考慮して市内6地域に分け、ごみ組成の季節変動をみるため、春・夏・秋・冬の計4回実施しました。

春：5月28日(木)および5月29日(金) 夏：8月27日(木)および8月28日(金)

秋：11月26日(木)および11月27日(金) 冬：2月25日(木)および2月26日(金)

年間を通じた市全体の1袋あたり平均重量は5.06kgで、見かけ比重(1ℓあたりの重量)は、0.112kg/ℓとなっています。

季節別による市全体の平均重量は夏が5.77kgと最も重く、冬が4.34kgと最も軽くなっています。(19年度調査でも同様に夏が最も重く、冬が最も軽かった)

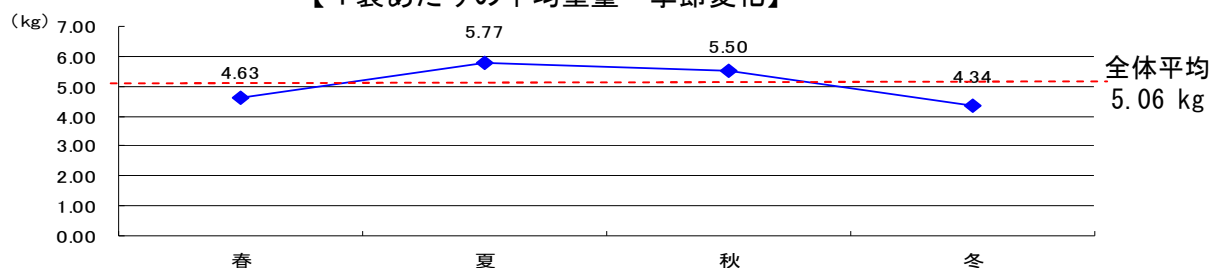
地域別による年間の平均重量は、北部地域、東部地域および南部地域が市平均の5.06kgを上回り、最も重いのは東部地域の5.43kg、最も軽いのは中央地域の4.69kgとなっています。

【1袋あたりの重量】

(単位：kg)

区分		中央	東部	西部	南部	北部	河・雄	全体平均
年間	平均	4.69	5.43	4.94	5.09	5.24	4.78	5.06
	最大	13.90	12.80	11.70	11.00	11.80	10.40	13.90
	最小	1.10	1.50	2.20	1.60	0.90	1.30	0.90

【1袋あたりの平均重量・季節変化】



○ 地域別によるレジ袋数

今年度の調査から、ごみ袋に混入しているレジ袋の枚数を計測し、地域別、季節毎の排出状況を把握しています。

【ごみ袋1袋あたりのレジ袋数】

(単位：枚)

時期・地域	中央	東部	西部	南部	北部	河・雄	全体
春	3.7	3.8	4.3	5.3	4.8	4.1	4.3
夏	3.9	3.6	4.2	3.4	3.3	2.8	3.6
秋	3.5	4.2	4.2	4.0	3.8	3.7	3.9
冬	2.5	3.3	3.7	2.9	3.2	2.3	3.0
平均	3.4	3.8	4.2	3.9	3.7	3.3	3.7

○ 生ごみの含水率

今年度の調査から、ごみ袋中の生ごみの含水率を計測し、季節毎の変化を把握しています。年間を通じた平均含水率は68.45%で、季節別では夏が76.45%と最も高く、次いで冬が69.39%、春が68.67%で、秋が66.39%と最も低くなっています。

【生ごみの含水率】

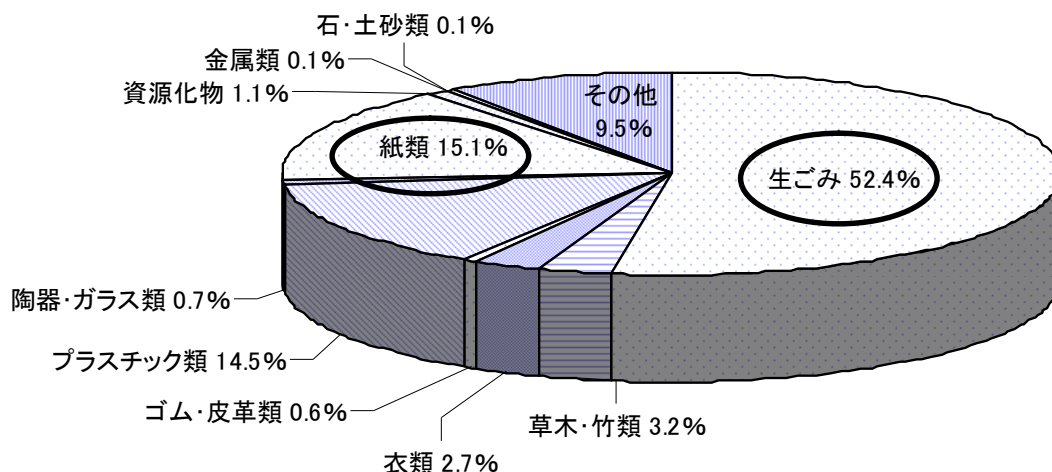
(単位：%)

	春	夏	秋	冬	年間平均
含水率	68.67	76.45	66.39	69.39	68.45

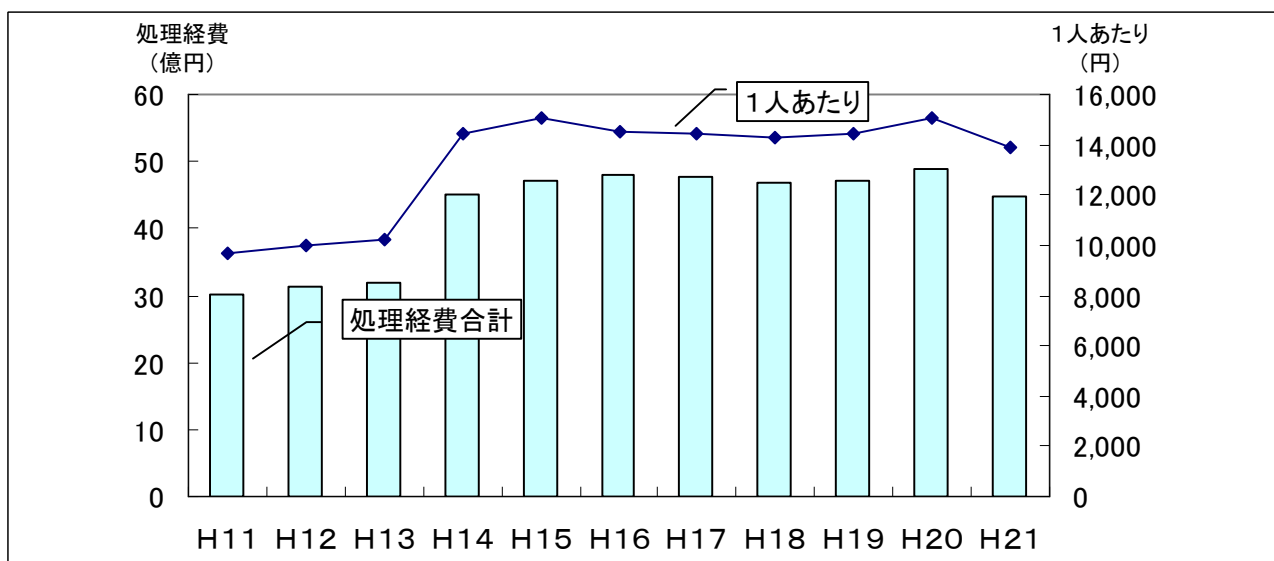
年間を通した市全体の組成割合は、「生ごみ」が52.4%と最も高く、次いで「紙類」が15.1%となっています。

資源化物の混入については、「再生可能な紙類」が11.6%と高く、紙類全体の約8割を占めています。

【ごみの組成割合】

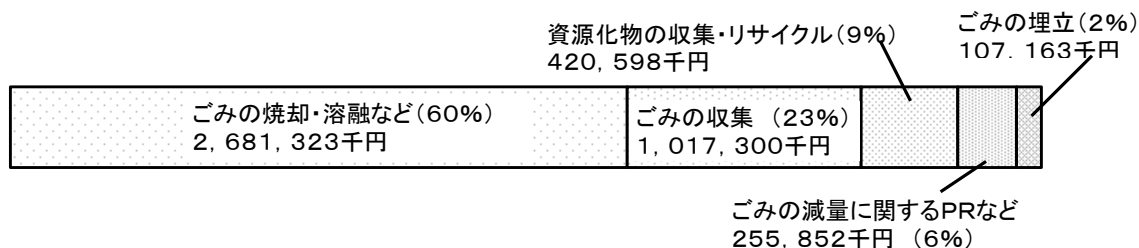


(3) 処理経費の削減



*啓発活動等の発生抑制に関する経費も含んでいます

○ごみ処理経費の内訳（総額：4,482,236千円）



6 ごみ減量に向けた取組

(1)ごみ減量・分別井戸端会議

町内会やサークルなど市民団体の集まりや小中学校に職員が伺い、ごみの減量方法や分別方法をお知らせするとともに、ごみに関するご意見やご質問にお答えする出前講座として、平成17年度から実施しています。

本市のごみ処理の現状や処理経費、家庭ごみの内容などをご説明し、ごみ減量への理解を深めてもらうとともに、地球温暖化の状況や風呂敷の活用術なども紹介しています。

○ごみ減量・分別井戸端会議の風景

平成21年度は、土・日や平日の夜も含め51回開催し、1,819人の皆さんにご参加いただきました。



(2)事業系ごみの減量対策

平成13年度から職員による事業所訪問を実施しており、リサイクル可能な古紙類など資源化物の分別徹底に関する指導を行っています。

また、平成20年度から事業活動に伴ってごみを多く排出する事業者(多量排出事業者)を対象にした減量指導も引き続き実施しています。

○多量排出事業所への訪問指導

今年度は115の対象事業者に連絡・訪問し、分別指導等を行いました。

また、過去3年間の減量および再資源化への取組が特に優れている事業者の公表や表彰を行います。

○一般事業所への訪問指導

今後、一般事業者の啓発・指導については、商店街連盟および団体・協会等への効率的な周知を行います。

(3)レジ袋削減に向けた取り組み

地球温暖化防止に向けた身近な取り組みとして、『レジ袋』の削減運動が全国的に進められています。

本市でも、スーパーなどの事業者、市民団体等、秋田市の3者が集まって「レジ袋削減に向けた懇談会」を開催し、レジ袋削減のための協議・検討を行っています。

また、市民の皆さんに、家庭系ごみの排出抑制(＝リデュース)をはかる契機としていただくため、買い物へのマイバッグ持参とレジ袋の受け取り辞退を呼びかける「レジ袋削減キャンペーン」を平成22年度よりスーパー店頭などで展開しています。

○レジ袋削減懇談会開催実績

【第一回】H.22年5月19日：秋田市がごみ減量に係る取組として「レジ袋削減に向けた取組に関する協定」を締結することを目標に開催(事業者:13社15名、市民団体:7団体11名)

○レジ袋削減懇談会開催実績

【第二回】H. 2 2年6月28日：参加小売事業者数が増え、今後の取組を話し合う（事業者：17社18名、市民団体：6団体7名）

【第三回】H. 2 2年7月12日：レジ袋削減の啓発活動を推進するため7つの市民団体が連携し「秋田の環境を考える市民ネットワーク」を立ち上げました。

（事業者：12社15名、市民団体：7団体7名）



左：レジ袋削減キャンペーン開催状況
上：秋田市作製オリジナルマイバック

（４）環境貯金箱作戦

ごみを減らすことで処理経費が節約できることを市民に周知するとともに、節約された経費を市民に還元することで、ごみ減量意識を醸成し、市が処理するごみの減量につなげるもので、平成16年度から実施しています。

【対象とするごみ】 家庭ごみ・粗大ごみ（資源化物を除く）

【基準年度】 平成14年度（現在の分別区分に変更）

【節約単価】 ごみ1㌧あたり 1, 154円

【貯金額】 （当該年度の排出量－基準年度の排出量）×単価

【実績】

年度	ごみ排出量	減量分	貯金額	還元事業
H16	121, 098㌧	3, 823㌧	4, 412千円	—
H17	126, 753㌧	3, 417㌧	3, 943千円	—
H18	126, 282㌧	3, 888㌧	4, 486千円	オリジナルマイバッグの製作等
H19	122, 114㌧	8, 056㌧	9, 296千円	生ごみ水分減量学習会の開催等
H20	116, 021㌧	14, 149㌧	—	生ごみたい肥づくり学習会の開催等
H21	115, 013㌧	15, 157㌧	—	生ごみたい肥づくり学習会の開催等